

～ 友好のかけ橋 ～

日中大学院生ジョイントセミナー

同濟大学(中国・上海)と長崎大学の交流

日中大学院生ジョイントセミナーの
ロゴマーク
China & Japan のCとJで
形づくるGは、大学院生
(Graduate Students)を
意味する。



長崎大学



同濟大学

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、
同濟大学(中国・上海)と長崎大学で、
毎年交互に行われている国際的なセミナーです。
昨年10月、第6回目
が長崎大学で開催されました。



熱烈歓迎。長崎空港に到着したばかりの同濟大学の皆さん(大学院生14人、教員2人)と。

第6回日中大学院生
ジョイントセミナー
実行委員長

棚橋 由彦 教授
Tanabashi Yoshihiko



大学院生が 企画・運営するセミナー

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、
同濟大学大学院と長崎大学生産科学研究科の大学院生による催しで、お互いの研究成果を発表するシンポジウムを中心とした国際交流の場です。2004年に同濟大学で第1回目を開催して以来、毎年交互にホスト大学となり、今回で第6回目を迎えました。

このセミナーの大きな特長は、企画・運営のすべてを大学院生が行うという点です。
日本に限らず、研究者として歩みはじめたばかりの大学院生たちは、国際的な場で発表する機会が少ないのが現状です。また、このような催しを大学院生が手がけるといふことも、ほとんど例がありません。

開催する側の大学院生は、発表する論文を集める、シンポジウムの日程や会場を決める、スムーズな行程を考えるなど、相手の大学とメールで細かいやりとりをしながら準備を進めます。コミュニケーションは、すべて英語で行われるため、お互いの英語力の向上にも役立っています。

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、参加者が研究面での刺激を受けるだけでなく、企画遂行能力の向上や、文化の異なる人間同士がふれあい、友情を育む素晴らしい

第6回日中大学院生ジョイントセミナー

平成21年10月16日(金)～19日(月)

主なスケジュール

- 16日 出迎え、ウエルカムパーティー
- 17日 第6回日中大学院生ジョイントセミナー、バンケット
- 18日 水無川、雲仙岳災害記念館の見学
- 19日 見送り



中部講堂前にて記念撮影。参加者は総勢約50人。



オープニングセレモニー後、同済大学からの記念品を披露する片峰学長。同済大学学長代理の刘曙光教授(中央)、長崎大学の蒋教授(右)。



受付は工学部の4年生がお手伝いしました。



セミナーの進行役。両大学の2人が務めた。



発表された研究テーマは、土木工学、構造工学、海岸工学にちなんだもの。



ノーベル賞を受賞した下村脩先生がセミナーの会場に突然現れ、大学院生らに励ましの言葉を述べられた。予期せぬ出来事に、参加者は大感激。



英語による発表と討論が活発に行われました。

セッション



中国ではなかなか見ることのできない噴火災害の爪痕。貴重な体験となった。

水無川・雲仙普賢岳見学
自然の脅威を目前にして、工学の重要性を再認識



セミナーを終え、先生方もひと安心。長年の親交をさらに深めて。



言葉の壁を越え、同世代ならではの話で盛り上がりました。

バンケット

お互いの人柄にふれて、絆がさらに深まりました。

しい機会にもなっています。この経験は大学院生たちが将来、国際社会で活躍していくにあたって、たいへん役に立つと期待されています。

教員同士の地道な交流をベースに

同済大学は、土木・建築分野において中国国内で1、2位を競うほどの実力を誇る大学です。長崎大学工学部との学術交流は、すでに17年前(1993年)からはじまっており、当初は教員を中心に学術訪問や講演、ジョイントシポジウムが行われていました。教員レベルの地道な交流を重ねる中で、2001年には両大学間に学術交流協定が締結され、以来、歯学部水産学部など他の学部にも交流を拡大させていきました。そうした中、学生同士の交流も進めて行くという共通認識が生まれ、留学生の受け入れや、大学院生の共同指導などさまざまな学術交流が継続的に行われています。その一環として、「日中大学院生ジョイントセミナー」も開催されるようになったのです。

アジア国際交流の拠点大学をめざして

同済大学との交流の大きな目的は長崎大学の教育・研究レベルの向上だけでなく、国際的に活躍できる人材の育成にあります。また、地理的にも近く、歴史的にもアジアと関わりの深い長崎大学が、こうした交流を今後も継続させることで、アジア国際交流促進において中心的役割を果たす大学という独自のスタイルを築くことに大きく貢献できると確信しています。

参加者の声



第1回から第6回までの論文集。
開催する側の大学院生が制作する。



環境システム工学専攻
博士前期課程2年

吉田 敬一さん
Yoshida Keiichi

スケジュールづくりや、発表する教室の確保、論文の冊子の制作など、開催の準備は全て大学院生が行うためとてもたいへんでしたが、いい経験になりました。昨年は同済大学で発表者として参加しましたが、大学の広さや教育設備の充実ぶりに驚かされました。英語力は同済大学の方がレベルが高く、自分も頑張らなくてはと大いに刺激を受けました。



環境システム工学専攻
博士前期課程1年

辻 大志さん
Tsuji Hiroshi

今回、準備のため同済大学の方々とメールのやりとりをしたり、また長崎入りしたときの案内役を担当するなどしましたが、すべてにおいて英語に苦労しました。普段は外国の方々と接する機会はほとんどありませんから、とても為になったと思います。いっしょに食事をしたりする中で、国は違っても同世代として通じるものを感じ、うれしく思いました。



同済大学大学院
修士課程2年

沈 英婷さん
Shen Yingting

昨年、同済大学で行われたとき、長崎大学の発表に興味を抱き、チャンスがあれば学部や研究室を訪れてみたいと思っていました。今回、参加できて本当にうれしい。長崎は、緑が多く、空気も水もきれいですね。私は寮生活なのですが、日本の学生は普段どんな生活を送っているのか、たいへん興味があります。今回、ぜひ、聞いてみたいです。



システム科学専攻
博士後期課程3年

趙 程さん
Zhao Cheng

同済大学4年のとき、第1回目が開催され、準備を手伝いました。翌年、長崎大学で行われた第2回目にも参加したのですが、そのときの長崎大学の研究や先生方との出会いがきっかけで、3年前にこちらへ留学しました。このセミナーを通して、国を越えた生涯の友もできました。来春には、同済大学に教員としてもどる予定です。今後はお互いの大学、そして国同士のよりよい交流のために役に立ちたいと思っています。



同済大学大学院
修士課程2年

勾 鴻量さん
Gou Hongliang

同済大学では、このセミナーに参加したいという人が多いため、研究成果を出した人や成績が優秀な人が選抜されます。今回、参加できて光栄です。長崎に到着したとき、昨年のセミナーで知り合った人たちと再会し、古い友人にあったような気分になりました。ノーベル賞を受賞された下村脩先生にもお会いできて、本当にうれしかったです。

新たな展開をめざして

毎回このセミナーを通して感じているのは、一つは、国際交流の舞台に学生を立たせることの重要性です。発表・討論をきっかけに、相手の大学の研究に興味を持ち留学をする人、積極的に国際的な学会に参加しはじめた人、あらためて英会話を学ぶ人などがいます。また国境を越えて友情を育むなど、たいへんいい影響を及ぼしています。

一つ目は、長崎独自の土地柄をもっと活かしたいということです。鎖国時代は唯一の国際交流の窓口でした。時代とともにその役割は首都・東京に移っていきましたが、地理的には、長崎は東京よりもアジアに近いのです。その特長と、日中大学院生ジョイントセミナーの経験を活かし、今後は、韓国やベトナムなどアジア諸国との交流もめざしています。

また、工学部ではこれまでの国際交流の実績をもとに、「アジア循環型社会工学研究教育センター」が設置されることになりました。循環型社会の工学分野における途上国のリーダー的人材を継続的に育成する拠点をめざすもので、海外から優秀な留学生が集うことが期待されています。

これまで地道に回を重ねてきた、日中大学院生ジョイントセミナー。さらなる継続をめざすと同時に、日本とアジア諸国とのかけ橋となる新しい展開にも力を注いでいきたいと考えています。

第6回
日中大学院生
ジョイントセミナー
実行副委員長
蒋 宇静 教授
Jiang Yujing

